

《創世記

7章1節～24節》

◆ 読んで・聴いて 思い巡らそう

【メモ・Memo】

- 心に届いたみ言葉
- 時代への呼びかけ
- 「悔い改め」

- 気づき
- 教会に示されたこと
- イエスさまとの関連

◆ 聖書味読 翻訳の違い

創世記 7章1節

【新共同訳】 7:1 主はノアに言われた。「さあ、あなたとあなたの家族は皆、箱舟に入りなさい。この世代の中であなただけは**わたしに従う人**だと、わたしは認めている。

【聖書協会・共同訳】 7:1 主はノアに言われた。「さあ、あなたと家族は皆、箱舟に入りなさい。この時代において私の前に正しいのはあなただと認めたからである。

【口語訳】 7:1 主はノアに言われた、「あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい。あなたがこの時代の人々の中で、わたしの前に正しい人であるとわたしは認めたからである。

【新改訳2017】 7:1 主はノアに言われた。「あなたと**あなたの全家**は、箱舟に入りなさい。**この世代**の中において、あなたがわたしの前に正しいことが分かったからである。

【新改訳改訂3】 7:1 主はノアに仰せられた。「あなたとあなたの全家族とは、箱舟に入りなさい。あなたがこの時代において、わたしの前に正しいのを、わたしが見たからである。

【フランシスコ会訳】 7:1主はノアに仰せになった、「お前とお前の家族はみな箱船に入れ。お前だけが今の世代において正しいとわたしは見たからである。

【現代訳・尾山玲二】 7:1 主はノアに仰せられた。「家族の者と一緒に箱舟に入りなさい。あなたがこの世の人たちの悪に染まらず、

義しい生き方をしているのを、わたしは見ている。

【LB】7:1 とうとうその日がきました。神様がノアに命じました。「さあ、**家族全員と船**に入りなさい。この地上で正しい人間と言えるのは、おまえだけだ。

【70人訳・ギリシア語聖書】7:1 主・神はノアに向かって言った。「おまえは乗り込むのだ、おまえとおまえの家族全員は箱船に。わたしはおまえがこの世代の（人びと）中でわたしの前に義しいと**見てとった**からだ。

【岩波訳・月本昭男】7:1 ヤハウェはノアに言った、「あなたとあなたの家族全員は箱船に入りなさい。わたしはあなたがこの世代にあって、なお、わが前に義しい、と認めただからである。

【関根正雄】7:1 そこでヤハヴェがノアに言われた、「君も君の全家族も箱舟に入りなさい。わたしは君がこの時代の人たちの中でわたしの前に義しい者であるのを見たからだ。」

【TEV】

Gen 7:1 The Lord said to Noah, "Go into **the boat** with **your whole family** ; I have found that you are the only one in all the world who does what is right.

◆ み言葉を生き み言葉を伝えるために

① 7章の構成 大枠で三部

- 1) 1-5 節 乗船命令 2) 6-16 節 洪水と乗船
3) 17-24 節 滅亡と救い

② 当然のことのように見えるが、繰り返される言葉がある「箱舟に入る」が繰り返される。

1 節、7 節、9 節、13 節、15 節、16 節、23 節

「箱舟」は「教会」として読むことを既に学んだが、「キリスト」として捉えることも大切である。

③ 「裁きの厳しさ」を強く表す語がちりばめられる

「ぬぐい去る」 4 節、23 節

「息絶えた」 23 節

他の訳：「消し去られ、滅びた、消し去った、全滅させた」

「死んだ」 22 節

④ 上との関連で「すべて」が21節、22節、23節で連続し、裁きの厳しさが反復強調される

⑤ 「主が命じられたとおりに」が5節、9節、16節でくり返し用いられる。

⑥ 林嗣夫先生の視点 ノアは好きな動物だけを乗船させたのではない ※森加筆

『青少年のための 聖書の学び 創世記』において、林嗣夫先生はこう記された。

船にはいないほうがよい、と思われる猛獣や不愉快な動物たちもいたでしょう。毒虫もいた。しかし、それでもノアは、自分勝手な判断をしないで、神さまのご命令に従ったのです。

⑦ 「主は、ノアの後ろで戸を閉ざされた。」

佐藤彰牧師の読み方 『まるかじり創世記』 *森加筆

ノアの洪水と聞くと、私たちはすぐ恐ろしい神、神の裁きを連想する。けれども同時にここには、愛なる神、神の救いも現されていた。

「主は、ノアの後で戸を閉ざされた」をどう読むだろう。なんとも優しさに満ちた神のみ手が表現されているのではないか。

そもそも、神の御心を痛め、悪が満ちる当時のノアの時代には、義なる神のさばきが下ることは至極当然の道理である。時間の問題のように思われた。

ところが、ただ恐ろしい神でだけあったならば、地上の世界に見切りとつけ、即座に、この時代で全てを滅ぼし尽くす最終審判をも実行できたはずである。そうすれば、二度と、御心を痛めることもなかったはずなのだ。そして、その人類の救いのために、大切な御独り子をこの地上に遣わし、犠牲にする御苦しみを味わうこともなかった。神は、滅びの前に救われる者を確保された。

ノアとその家族、そしてそれに伴い、神が指示された動物たちである。神は救われる者を定め、時代を見通し、準備しておられたのだ。そして、その一団を一人ひとり確認し、誰ひとり洩れることなく、救いの箱舟に乗船したことを確認するかのようにして、神ご自身が後の扉を閉ざされたのである。

⑧ 「主は、ノアの後ろで戸を閉ざされた。」

林嗣夫先生の読み方 『青少年のための聖書の学び
創世記』 *森加筆

【ノアの平安】 ノアは、神さまの命じられたとおり、家族と動物たちを箱舟に入れると、自分も中に入った。すると、神さまはノアの背後の戸を閉ざされた。ノアはここで初めて平安を得たことだろう。神さまのご命令に従っていたノア！彼には信頼と平安があったに違いない。

【ノアの不安】 ノアは、全体を「タール・アスファルト」で塗り固めたが、戸を塗り固めてしまうわけにはいかなかった。そこから、水が入ってきたらどうなるのか。考え始めれば、不安は尽きなかった。しかし、神さまは、人間の心配を越えて、ご自分で最後の封印をなされた。

そして、事実、ノアは、神が自分の後で扉を閉ざされたのを見て、箱舟の中には平安があることを知ったのだ。箱舟を浮かべるのは神の業。そして、箱舟の安全も神のみ手の中にあった。

⑨ 「救いの日」

教会の扉は開かれている。ヨハネ黙示録 3:8 参照。

◆ヨハネの黙示録 3:8 「わたしはあなたの行いを知っている。見よ、わたしはあなたの前に門を開いておいた。だれもこれを閉めることはできない。あなたは力が弱かったが、わたしの言葉を守り、わたしの名を知らないと言わなかった。

今は恵みの時、今は救いの日である。第二コリント書 6:2 参照。

◆第二コリント書 6:2 なぜなら、／「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを

助けた」と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。

⑩「審判の日」はいつやって来るかわからない

7章11節「ノアの生涯の第六百年、第二の月の十七日、この日、大いなる深淵の源がことごとく裂け、天の窓が開かれた。」

ノアの箱舟がその徴であるように、審判の日が来ると聖書は告げている。扉は閉じられる。それがいつかは分からない。

ノアの時代の人びとが洪水の来る日まで、裁きが襲いかかることがわからなかった。

マタイによる福音書 25 章を読みたい。例えば、25:1-13 の「10 人のおとめ」の譬え話では「目を覚ましていなさい」と言われる。

⑪ 浮かぶ箱舟・17節 漂う箱舟・18節

7:17 洪水は四十日間地上を覆った。水は次第に増して箱舟を押し上げ、**箱舟は大地を離れて浮かんだ。**

7:18 水は勢力を増し、地の上に大いにみなぎり、**箱舟は水の面を漂った。**

箱舟は、水が増えるに従って、いよいよ高く浮き上がった。救いがそこにある。救いが起こっている。どのようにして起こったのか。神によってなのである。

しかし、箱舟は、自分の力で好きな処へ行くわけにはいかない。一切を神に委ねるしかない。前回は触れたが、この箱舟は装置のことは、何一つ指示がない。帆も、櫓も、舵もない。つまり、この舟は自力では航行出来ないのである。

ただ、神のよしとされる時がきて、神が扉を開くことをおゆるしになるまで（8:15 以下）、漂っているための「箱」に過ぎないのだが、しかし、それで十分だった。

⑫ 大洪水によって大地は消えていった 裁きは確実に起こっている 容赦ない事実、報告がある 素朴にみ言葉を讀みたい

7:19 水はますます勢いを加えて地上にみなぎり、およそ天の下にある高い山はすべて覆われた。

7:20 水は勢いを増して更にその上十五アンマに達し、山々を覆った。

7:21 地上で動いていた肉なるものはすべて、鳥も家畜も獣も地に群がり這うものも人も、ことごとく息絶えた。

7:22 乾いた地のすべてのもののうち、その鼻に命の息と霊のあるものはことごとく死んだ。

7:23 地の面にいた生き物はすべて、人をはじめ、家畜、這うもの、空の鳥に至るまでぬぐい去られた。彼らは大地からぬぐい去られ、ノアと、彼と共に箱舟にいたものだけが残った。

(以上)